

特集

必要な時に、

必要な人材を

事業者から見る

スポットワーク活用の効果



福井県の有効求人倍率は7年連続で全国トップを維持する一方、企業は深刻な人手不足に直面している。こうした状況を背景に、デジタル技術を活用した「スポットワーク」が注目を集めている。スポットワークとは、空き時間を活用した単発・短時間の就労形態を指す。柔軟な働き方を求める個人と、繁忙期や特定業務に迅速に対応したい企業のニーズが合致し、市場は急速に拡大を続けている。(一社) スポットワーク協会への取材によると、今年7月1日時点の登録者数は約3700万人(協会加入大手4社の登録数、重複あり)に達し、昨年2月の2200万人から大幅に増加した。特に若年層では、アルバイトや副業の新たな選択肢として関心が高まる。企業側にとっても従来の雇用形態では困難だった柔軟な人材確保が実現しつつあり、繁忙期の人員調達や経験を要する短期業務への対応が可能となる。

この動きを受け、7月1日には福井県・福井県商工会議所連合会・(株)タイムーの三者で、産業振興に関する協定を締結。スポットワークの普及推進と事業者への導入支援強化、さらには埋もれた労働力の掘り起こしを目指す。(株)タイムーへの取材によると、今年4月の県内事業所登録数は前年同月比で

1.6倍、ワーカー数も1.5倍と大幅に増加している。必要な時に必要な人材を確保できるスポットワークは、人手不足に悩む企業にとって有力な解決策となる可能性を秘めている。

一方、中小企業・小規模事業者からは「導入方法が不明」「活用できる業務のイメージが湧かない」といった戸惑いの声や単発・短時間の働き手への品質面の懸念などを危惧する経営者も少なくない。そこで今回の特集では、スポットワークを実際に活用する企業事例や専門家の知見を通じ、この新しい働き方の可能性と効果的な導入・活用のポイントを探っていく。



福井県、福井県商工会議所連合会、(株)タイムーとの協定締結式

まちの電気店が スポットワーク活用で得た 「+αの効果」

有限会社赤坂電機

代表取締役 赤坂 光彦 氏

福井市つくもで家電小売・電気工事業を営む(有)赤坂電機。繁忙期の人手不足解消のためにタイミーを活用している。赤坂光彦社長にスポットワークの実態について尋ねた。

福井でも予想外の応募実績が

同社がスポットワークに注目したきっかけは、夏場のエアコン工事における慢性的な人手不足で、直近1年間で延べ22名のワーカーを活用した。「福井で電気工事のサポートという仕事に人が来るのかという思いもあったが、いざ募集してみたらあっさり来てくれて驚いた」と赤坂社長は語る。時給1,000円に交通費500円



を加えた条件で募集をかけると、早ければ数時間以内に応募がある。利用者は30〜40代の男性が主で、ダブルワーク希望者と求職者が半々である。中には平日は事務職をしながらも「仕事で汗をかきたい」と土日のみ参加するワーカーや、エアコンの取付工事を学びたい独立希望者もいるという。

勤務場面は、冷蔵庫やエアコンなど白物家電の設置工事の補助作業が中心だ。最近では蓄熱暖房機の撤去作業の需要も多く、レンガ材の搬出で重宝しているとのこと。作業時には安全管理を徹底するように注意している。室外機は40kg以上の重量のものもあるため、運搬時は特に注意を払う必要がある。他にも、大学生が勤務した際は、危険な作業は代わって行うなど、年齢や体力に応じた配慮を心がけている。

顧客紹介という想定外の成果

導入効果として赤坂社長は「業務効率化」と「顧客満足度向上」の両面でメリットを実感している。「例えばマンション3階への家電の上げ下げを全て1人で行えば、時間もかかるし、顧客にも迷惑がかかる。2人体制になって作業時間が短縮され、顧客への安心感も生まれたのではないかと話す。大手量販店のように複数人での対応が可能になったことで、顧客の信頼獲得

にもつながっている。

想定外の効果として、ワーカーからの顧客紹介という思わぬメリットも生まれた。「一緒に働いてもらったことで、私の人柄や仕事の進め方を理解してもらえた結果、『知り合いの家のエアコンも見てもらいたい』と声をかけてくれた」と赤坂社長は振り返る。ワーカーからの口コミによる営業効果は、従来の広告宣伝では得られない信頼性の高い顧客獲得手法ともいえる。

今後の展望について赤坂社長は「地方でも十分に人が集まることがわかったので、今後は営業や事務など他職種への募集への活用も検討したい」と意欲を見せる。



エアコンの入替需要でタイミーのワーカーを活用する

スポットワークで見極めて 長期採用へつなげる

株式会社ノースリバー
代表取締役 北川 紀夫 氏

福井市内で「RAMEN W」「自家製麺らぁ麺食堂W」の2店舗を展開する(株)ノースリバー。北川紀夫社長は、スポットワークで勤務したワーカーを常勤のアルバイトとして採用した実績を持つ。スポットワークの活用方法について話をうかがった。

実働で見極める新採用手法

タイミーを活用し始めたのは2023年。きっかけはアルバイトの急な欠勤に対する人手不足を解消したいという思いからだ。導入背景には、独自の勤務体制がある。同社では面接時に「月にどのくらい稼ぎたいか」

を必ず確認し、希望額に応じたシフトを組む方針だ。そのため余剰採用は行わず、学生のテスト期間や急な欠勤時は既存スタッフの勤務を増やして対応するしかなかった。

タイミー経由のワーカーは、学生と主婦層が中心で、業務内容は主にホールでの配膳や皿洗い、座席の後片付けなど。配膳は注文後ラーメンを持って行き完結することが大半なので「接客が苦手でも働きやすい環境」だ。北川社長自身が現場でワーカーと一緒に働き、店の雰囲気や勤務形態に適性があるかを判断している。「これまでも面接を重視してきたが、面接だけでは仕事への適性は分からない。実際に働いてもらうことで、うちの店の雰囲気に合う方を見極められる」と北川社長は語る。既にこれまでも2店舗で計12名の正式アルバイトの採用につながり、現在6名が勤務している。

運用の工夫と課題

多様な経験を持つワーカーと共に働くことで、既存スタッフの働き方にも良い影響をもたらしている。「新しい方にその都度仕事を教えることで、うちの社員も初心に返ってくれる」という。また、他店の運営ノウハウを基にした情報を教えてくれるワーカーもお

り、例えば清掃用洗剤の情報提供など、実践的な知識交換も生まれている。

運用面では、急な欠勤対応の際には時給を通常より高めにした。夜の勤務ならば開始を18時半から設定すれば比較的決まりやすい」といった時間調整を実施。一方で「先着順なので人を選べない」「直前キャンセルや遅刻をする人もいる」という課題もあり、事前のメッセージで業務内容を確認し合うなどの対策を講じている。今後については「実際に働いてもらってお互いを知ることができるのがスポットワークの一番のメリットだと思う。今後も良い人材の採用に向け、利用を継続したい」と北川社長は展望を語った。



ワーカーは料理提供などの業務を担う

専門家に聞く

スポットワークの 効果と課題

スポットワークが普及することによる効果や、事業者が把握すべき課題等について
社会保険労務士の今井順也氏
(社会保険労務士法人今井労務経営 所長)に
尋ねた。

柔軟な働き方と リスクヘッジの両立

タイミーなど仲介事業者経由の人材活用について、当社の顧問先企業の中では、飲食店において繁忙期など短時間ニーズに対応しているほか、介護業界では従来集まりにくかった若い人材の確保が可能となった事例が見られる。また、事業者経由の人材が直接アルバイト、さらに正社員へ発展するケースも生まれており、今後はスポットワークから長期雇用・定着に繋がる可能性は高まると思われる。

企業のメリットとして、必要な時だけ人材を確保でき、何らかの問題がある人材は「1日限りの関係」で切り替えられるという声も聞く。企業にとっては、人手が必要な時間帯のみ活用可能なスポットワークは現在の労働市場に適しており、派遣と同程度の手数料でありながら、短期利用できるといってもリスクが低い。

また、タイミーでは労働者名簿や労働条件通知書など法的に必要な書類がアプリで入力した情報をもとに自動で作られるため、作成が煩わしい書類が確実に整備されるという点でも、法令遵守が進んでいる側面がある。また、面倒な給与計算の必要が無いこともメリットの一つだろう。

見過ごされがちな法的課題も

今後の注意点としては、労働保険料申告の際の構造的な漏れである。仲介事業者経由で支払われる給与は本人への給与明細ではなく、仲介事業者への請求書で支払うため、企業が労働保険料の申告時に見落としをしまい、こちらから指摘する事例も発生している。本来は労働者（給与賃金）として扱うべきなのに外注費のような処理を行うケースが頻発すると予想される。事業主とスポットワーカーには直接労働契約が成立し、労働法令が完全適用されるので、通常のアルバイトと同様、労働法の遵守が必要との認識が不足しがちである。企業側は、スポットワーク利用時の労務管理について正しい理解を深める必要がある。

一方、労働者には「フリーランス感覚」ではなく、適切な労働者としての権利と義務を理解してもらう取り組みが重要となる。人材確保が深刻な経営課題となっている今、スポットワークアプリは「選ばれる企業」となるための手段として活用価値は高い。法令を遵守した運用により、一時的な戦力確保だけでなく、人材の定着や再戦力化につなげることで、恒久的な人材確保と持続的な成長が実現されることを期待したい。

人手不足が組織を強くする時代

今回の事例は、スポットワークが人手不足への応急処置を超え、業務効率化や営業効果、業務を通じた相互理解による正規採用への発展など、多面的価値を持つことを示している。特筆すべきは「勤務体験」がもたらす組織の「新陳代謝」効果である。初めて働く多様なワーカーへの業務説明や指導を通じて、既存スタッフが初心に戻り、成長を促される。さらに業務の棚卸しや改善への新たな気づきが生まれ、組織全体の活性化につながっているといえる。

運用にあたっては法令遵守面での課題に十分注意する必要があるものの、適切に活用すれば短期的な労働力確保から長期的な人材定着、組織活性化へと発展する戦略的なツールとなる。スポットワークの柔軟性を活かし、自社に合った活用方法を見出すことができれば、企業の新たな成長への道筋が見えてくるはずだ。

スポットワークに関するお問い合わせ先
創業・経営支援課

0776・333・8283